

第 360 回市民医学講座

平成 15 年 3 月 20 日 (木)

仙台市急患センター

仙台市医師会館 2 階ホール

**難聴とめまい - 内耳の病気を中心に -**

筑波大学名誉教授

草刈 潤

**1. はじめに**

音は外耳・中耳を経て内耳にある二つの器官のうちの一つである蝸牛に到達し、ここで神経の活動電位という電気信号に変換されその情報は脳へ伝達されます。また、内耳にあるもう一つの器官の平衡（前庭）器官（半規管と耳石器官）は回転加速度や直線加速度を感知してその情報を脳へ伝え身体のバランスを維持しております。したがって、内耳、あるいはその支配神経である第 8 脳神経（蝸牛神経と前庭神経）が障害されると難聴、耳鳴り、めまいなどの症状が出現致します。

**2. 難聴と耳鳴**

難聴は外耳・中耳に原因のある伝音性難聴と内耳およびそれ以降の障害による感音性難聴にわかれ、後者はさらに内耳障害による内耳性難聴と蝸牛神経や中枢神経系に原因のある後迷路性難聴に分けられております。補聴器などにより音を増幅しますと、伝音性難聴では話が良くわかるようになりますが、感音性難聴（特に後迷路性難聴）ではそれほどには改善せず、音はきこえるが言葉が良く分からないこともあります。耳鳴は「外界に音源がないのに音を知覚する」現象で、音刺激がないにもかかわらず蝸牛神経が勝手に放電するためと言われております。耳鳴音の表現としては「キーン」が最も多く次いで「ゴーン」と「ジーン」などがあります。

**3. めまい**

回転性めまい（まわる感じ）と非回転性めまい（動揺感、ふらつき、立ちくらみ、不安定感、眼前暗黒感など）に分けられます。めまいの原因は内耳疾患の他に中枢神経系疾患（循環不全、梗塞、出血、腫瘍など）内科疾患（血圧異常、心疾患、貧血、内分泌障害、自律神経障害など）頸部疾患、眼科疾患、婦人科疾患、精神科・心療内科疾患、薬剤の副作用など多岐にわたります。私たちはめまいを主訴とする患者さんを診たときに、まず内耳疾患と他疾患（特に中枢神経系疾患）のいずれであるかを考えます。内耳疾患ではよく激しい回転性のめまいが認められ（時に非回転性もある）意識は常に明瞭で、吐気・嘔吐や難

聴・耳鳴を伴うこともあるのに対し、中枢神経系疾患では非回轉性のめまいが多く、時に意識障害、四肢の麻痺・しびれ、不随意運動、痙攣、視力障害、複視、言語障害、頭痛、頭鳴などが随伴することがあります。めまいが激しい内耳や第 8 脳神経の疾患では生命の危機に瀕するようなことは極めて少ないのに対し、重篤な疾患の可能性もありうる中枢神経系疾患では比較的軽いめまいのことが多いので、前者を「つらいめまい」後者を「こわいめまい」と言うひともおります。

#### 4 . 主な内耳および第 8 脳神経疾患

多くの疾患がありますが、ここではその代表として次ぎの 5 疾患について述べます。

##### 1) メニエール病

難聴・耳鳴を伴う回轉性めまい発作が反復して生ずる。発作の時間は 10 分～数時間くらいが多く、発作間隔は週 1～数回から数年～10 数年に 1 回くらいと多岐に亘っている。難聴・耳鳴は初期には発作終了後に消失するが、次第にめまい発作が終了しても軽減はするが消失はしなくなり、さらにその程度も次第に進行することが多い。蝸牛には内リンパ水腫が認められる。発症年齢は 30 歳代後半～40 歳代前半に最も多く(男 女) 推定有病率は 15～40 人/人口 10 万人程度である。治療は主として生活指導、薬物療法などで、手術もあるが適応症例は少ない。

##### 2) 突発性難聴

突然一側性の高度な感音性難聴が発症する。随伴症候として耳鳴(90%)やめまい(30～40%)がある。好発年齢は 30～50 歳代(男 女)で、発症数は年間 2 万人程度と推定されている。原因として一応内耳循環障害説とウィルス説があるが、その詳細はまだ不明である。治療は薬物療法が中心で、2 週間以内に治療開始した場合「治癒 43.4%、著明回復 20.2%、回復 18.4%、不変 17.9%」(柳田 1996)といわれている。予後を左右する因子として、一般に

初診時聴カレベル(全聾となった場合は予後が不良のことが多い)

めまいの有無(めまいのない方が良好傾向にある)

治療開始までの期間(1 週間以内に開始した方が良好傾向)などがあげられている。

##### 3) 老入性難聴

加齢に伴う蝸牛内の各細胞や蝸牛細胞の変性による難聴で、年齢とともに進行する。特徴としては難聴は感音性難聴であり、

両側性で左右同型・同程度

高音漸傾型

語音明瞭度が不良のことが多いなどがあげられる。

##### 4) 前庭神経炎

悪心・嘔吐を伴う激しい回轉性めまいが突発的に発症し、1～3 日持続した後非回轉性めまいに変わる。この非回轉性めまいは次第に減弱するが、完全に消失するには数週～数ヵ月

を要する。難聴・耳鳴はなく意識明瞭で、「つらいめまい」である。30～40 歳代に最も多い（男 女）。病因は不確定であるが、ウイルス感染によるという説がある。

#### 5) 聴神経腫瘍

第 8 脳神経（主として前庭神経）から発生する良性腫瘍で、一般に発育は緩徐である。初発症状は難聴・耳鳴で通常は徐々に進行するが、20% くらいの症例では突発的に発症する。めまいは少ない。内耳道内に発生するか大きくなると頭蓋内に進展し、他の脳神経や脳幹・小脳の症状が出現するようになる。40～60 歳代に最も多く、女性にわずかに多い。1 年間の発症数は人口 100 万人当たり 10 人程度である。治療法としては手術による摘出の他に放射線療法（ガンマナイフなど）も行われている。

### 5. まとめ

内耳および第 8 脳神経の病気は数多くあり、また追加でお話致しましたごとく症状は内耳疾患に類似していても実際は脳幹・小脳に梗塞や出血がある場合もあります。早期に治療した方が予後が良い疾患も少なからずありますので、めまい、難聴、耳鳴などが生じましたら早めにまずかかりつけの医院かお近くの耳鼻咽喉科医院を受診するようお勧めいたします。